

終夜密談りて退出も備前守あり種ふ横行
はり中も鷹狩廉追ふ彼所と酒狂ひに犯ひぬり
水晶山に登り殺生禁断にもきとふく廉追ひる狩
と家伝に犯ひる此山とて山平に二社あり一社と
大和神と云一社に觀世音菩薩是を水晶山権現と崇
めたるなり半腹に経り七尺計りの岩穴あり異類の
水晶の花形有りて穴の深さ知る人ありまより少し北
に布衣を云あり言さそを丈横八尺計り岩穴二つに分け
たる如く成る巖あり是も水晶の花形あり依て水晶山
日輪寺と号す昔し赤根の城主小田爲備前守平の朝臣

長義の領分故にある時罪人をは穴に入れて死せしむる彼者
云ふに中に結構ある世界のありと語りたるを誠に天驢殊
勝の所なりとありて義光公も殺生禁断の机を置む
けり亦備前守あり我傳傳し故に義光公少玉を以り
外市立腹ありして我の中を治めは義守の赤臺所
も是とぞと思ふに左様の悪奴不届の曲者ありとぞ追放
作自れなる高嶺は是非なく在り内へ移すも悪奴取
を頼みける義光公備前守より美作へ少山形より宇治まで
ふとて歸る者ありとて即ち近習より召仕しける備前
賢き者衆思ふ所の心を伺ひて其外近習白